



みすず



目次

「材料」はありますか？

講 師 山田 美幸 …………… 2

私と図書館

幼児教育科2年 楠 真実 …………… 4

絵本の役割について

国文科2年 中村 愛理 …………… 5

児童文化研究大会に出席した秋の一日

幼児教育科1年 横山 尚子 …………… 6

図書館ガイド

…………… 7

図書館ニュース

…………… 8

「材料」はありますか？

講師 山田 美幸

「料理はお得意ですか？」

私は自分自身のことについて質問されると、結構「うーん」と考え込んでしまうタイプなのだが、この質問は私にとって答えやすいものの一つである。質問者に向かってにっこりと微笑み、自信を持って答えるだろう。「はい！できません」と。大学に入って一人暮らしを始めて以来、生きていく上で最低限の、調理能力と食材探索能力ぐらいは会得しているつもりではいる。しかし、他人様に召し上がっていただけるようなご馳走はまず無理だろう。こんな私が料理人の娘ときたものだから、私の両親はほとんどあきれているに違いない。

前置きはさておき、ここ数年、新聞や雑誌紙上、図書館界をにぎわしている言葉の一つに、「情報リテラシー」がある。教育界ならば、関連する言葉に「総合学習」「調べ学習」などがある。情報リテラシーとは、氾濫する大量の情報の中から自分が必要とする情報へアクセス（入手・利用）し、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力である。この能力は「情報活用能力」とも呼ばれ、これからの社会で生きていく上で必要とされる能力とされる。もっと簡単に言い換えたなら「考えて、まとめ、発表する力」であろうか。情報リテラシーは具体的に、以下の能力を含むとされている。

1) **情報へのアクセス**：「どの情報源を調べれば、何が解るか」といった、様々な情報源について熟知しており、実際に参考書（調べるために使う本）やデータベースなどを利用して、必要な情報へアクセ

スすることができる。

2) **情報の評価**：情報の鮮度、精度などから、アクセスした情報に対し、必要である or 必要でないといった評価を正しく行うことができる。

3) **情報の活用**：自らがこれまで蓄えてきた既存の知識体系の中に、新しい情報を統合することができる。問題解決にあたって、情報を有効に適用することができる。

この情報リテラシーで必要とされる能力を、料理をすることになぞらえるとどうなるであろうか。まず、本や雑誌などを読んで、また、料理学校（教室）などに通って、どんな調理方法や調理器具があるかを知り、学ぶ（情報へのアクセス）。次に、自分が食べたい料理のレシピを参考に、蒸したらいいのか、焼いたらいいのかなどの調理方法の判断、どんな調理器具が必要になるかといった判断を行う（情報の評価）。最後に、自ら習得した調理方法や手にした調理器具をフルに活用し、台所中にある食材と上手に組み合わせ、下ごしらえをし、味付けし、自分が食べたい料理を完成させる（情報の活用）。

ところが、人間という生き物は、決まりきった時間におなかの虫が鳴いて、「何か食べたーい」というわけにはいかない。もし、「食べたい」願望が出たときに、冷蔵庫に卵、たまねぎ、鶏肉が入っていたら……。機転を利かせて、食材にご飯を足し、ご飯を炒めて、具を合わせ、ケチャップで味付けして、オムライスを作るかもしれない。しかし、冷蔵庫に野菜も何も入っていないとしたら……。

このご時世、コンビニエンスストアやスーパーのお惣菜コーナーが発達してきており、欲を言わなければ、それなりに手の込んだお惣菜が手に入るようになった。しかも、最近のお惣菜は栄養面も考えられて、カロリー表示もしてある。でも個人の味覚に合わせて、並べられているお惣菜が作られているわけではない。「塩味が濃いほうが好き」という人もいれば、「甘いのがいい」という人もいるだろう。そして、方々からもれてくる声の一つは「コンビニエンスストアのお弁当はおいしくない」。最終的に、人間という生きものは、自分の味を捨てられないものだろう。

さて、ここで問題なのは、自分の身近に、何かの料理に使えるような食材を常時取り揃えているか否か、そして、食材にどのようなものが世の中にあるのかを知らないことである。いくら料理の下ごしらえや加工の方法、包丁の使い方などをマスターしておいても、いざ食材が手近になければ、料理をする気も失せてくるであろう。また、冷蔵庫の中に、たまねぎとレタスが入っていても、調理方法を知らない（「想像力が無い」とも言う）がゆえに、「何も食べるものがない。じゃ、コンビニに行ってお弁当でも買ってこよう」となるのかもしれない。包丁はあくまで包丁に過ぎないのである。（「情報リテラシーを料理になぞらえるには、いささか無理があるのでは？」という声も聞こえてきそうだが、凡人のたわ言ぐらいで勘弁していただきたい。）

比喩はこれくらいにして、「考えてまとめる」行為においても、自分の中に考えるための材料を揃えておかないと、何も始まらない。「考えてまとめる」作業力を持っているだけではだめなのである。材料（食材）を手にして、構成を考え（下ごしらえ）、肉付けを行い（加工）、細部をまとめる（味付け）。その結果、文章や、絵、演劇など一つの表現作品が完成するものである。個人であれ、グループであれ、初め

から終わりまで何か物を作り上げるという点では、料理も「考えてまとめる」行為も同じであろう。

もちろん、自分の中に考えるための材料（これを世間一般では「知識」と呼ぶらしい）を持っているなら、それはそれに越したことは無い。しかし、「考えてまとめる」行為は、「いざ」というとき必要になってくるものである。論文を書くときのテーマ設定、履歴書に自己アピール文を書くとき、授業でレポート課題が出されたとき、などなど。何か物事について新しく関心を持ち、考えることが必要になったら、材料が必要になった時点で、手に入れる行動へ移れば良いのである。（但し、「いざ」という場合、人間は慌てて行動してしまい、大抵の場合失敗することが多い。）私の中の材料はまだまだ足りない。

日頃から自分の中に考える材料を蓄えることができ、しかも、「いざ」考えなければというときにもすぐに対応できる場所はどこか？ 皆さんの身近にあるところ、それが図書館ではないだろうか。（本学の図書館では、視聴覚教材の利用頻度がかかなり高いようである。それはそれで嬉しいのだが、司書課程担当者としては、CDを聞いたり、ビデオを見たりしてくれるついでに、本にもちょっと興味を持ってくれたらなあとも思ったりする。）

最後に一言。「材料」を自分の中に確保しておくことは、自分なりの考え、価値観を築き上げ、結果、ホンモノを見極める力につながるような気がする。生活に余裕がある間に、自分なりの考え、価値観を築き上げておく。そして、物事を信じるときの根拠を、「うわさ」や送手手の意志が入り込むこともある「情報」というラインにおかず、「事実」で判断できる人間になって欲しい。

私と図書館

幼児教育科2年 楠 真実

私は、小さい頃はあまり本が好きではなかった。本をよく読むようになったのは、中学1年の時だった。その頃私は悩みを抱えており、本を読んでそれを解決しようと思っていた。そこで、家にある本を手当たり次第読んだが、読み終わってしまうと、次に図書館を利用するようになった。

学校の図書館はあまり利用しなかったが、その代わり市立図書館をよく利用していた。多くの本がある図書館の雰囲気はとても居心地がよく、心が落ち着き、本のタイトルを見ているだけで楽しかった。その頃から図書館通いが多くなった。

その当時よく読んだ本は、灰谷健次郎、落合恵子、森瑤子、向田邦子、住井すゑ、中島らも、干刈あがた、沢村貞子などの作家のものであった。

住井すゑの「橋のない川」は夢中になって読んだ。向田邦子は飛行機事故で亡くなったが、ドラマの脚本家としての彼女よりも、エッセイの中の彼女により多く親しみを感じていた。とくに「父の詫び状」が好きだった。干刈あがたは「黄色い髪」を読んで知ることとなった。

私はその頃不登校だった。干刈あがたの「黄色い髪」は、不登校になった中学1年の少女の話だった。その本の中に、主人公の母親が主人公に一通の手紙を出す場面がある。「学校に行きなさいとも行かなくてもいいよとも言えない。学校におさまることは魂の死につながるようなところがあると同時に、学校から外れることも絶望感から死に向かいかねないようなところがあると思うようになった。どちらに

しても死や絶望に深く侵されたところに私達は生きているのだということに気づいた。私に言えることは夏実が選ぶことに意味があると思う」という内容である。私はこれを読んだ時、その通りだと思った。学校に行けないことで苦しんでいたのも、少し気が楽になったが、学校に行けるようになったわけではなかった。考えてみると、本を読むことで悩みが解決できたわけではなく、本を読むことで悩みの整理ができアドバイスをもらえたのである。

私にとって、本を読む楽しさはつらいことがあったからこそ知り得たことだった。

今私は、短大の図書館に毎日通い、そこで新聞を読み、二階へ行き絵本、CD、新刊書を見て一周りして帰るのが日課になってしまった。本やCDが借りられるし静かで落ち着けるので、図書館は本当にホッとする。疲れた時はソファーに座って考え事をしたり、ぼーっとしている時もある。

図書館は私にとって心のオアシスみたいなものだ。多くの本と出会い、多くの著者の考えが分かりとても楽しい。これからも図書館を大いに利用し、多くの知識や知恵を手に入れたと思っている。



絵本の役割について

国文科2年 中村 愛理

最近、ニュースを見ていても分かるが、少年犯罪が増えていると思う。そのなかには、両親と子どもの仲がうまくいかない事が理由で、最悪の状態になってしまうものがある。どうしてこのような事になってしまうのだろうか。

親子の関係がうまくいかないのは、親も子ども自分の意見や考えを押し通そうとするからではないかと思う。相手の意見を受け入れようとしないから、互いの関係がぎくしゃくするような気がしてならない。このことは家庭だけにとどまらず、社会に出た時にも同じ事が言えるのかもしれない。人の意見を聞かない、このことを改善するにはどうしたらよいか。

私は人間関係について教えてくれるのは、『絵本』だと思う。

私が絵本というものに出会ったのは、保育園の頃だった。毎晩寝る前に、母に「好きな本を一冊読んであげるから持っておいで。」と言われ、私は本棚の前で時間をかけて絵本を選んだ。そして結局迷った挙句、いつも同じ絵本を持って行き、母に読んでもらっていた。当時の様子を母に尋ねると、母は「毎回、飽きもせずに同じ本を読まされた。」と振り返る。

確かに大人ならば、子ども向けの絵本を一回読めば、話の内容はすぐに理解できるだろう。しかし、子どもは一回聞くだけで全ての内容を理解できるとは限らない。知らない言葉に出会うと、「これは何か？」と聞いたり、言葉が発する音のおもしろさに

笑う。私は、母の話聞くうちに、主人公へ感情移入し、様々な心境になる事も数多くあった。

小学校から大学までの長い期間、専門的な知識や教養を身につけるのは良い事だと思う。しかし、それにとらわれて、人間が大切にしなければならないものを忘れてしまうようでは意味がないのだ。

どんなに有名な大学を卒業しても、殺人を犯してしまう人は、学問に関しては優秀なのだろうが、人間としては最低ということになるのではないか。

今の義務教育を見ると、知識や教養ばかりを大切にしている。本当にそれで良いのだろうか。今の子どもたちに教えるべき事は、もっと別の所にあると思う。

人間は『心』を持っている。もし心が無くなったとしたら、それは『人間』と呼べるのだろうか

私たちの『心』は毎日成長してゆく。死ぬ最後の時まで成長をやめないだろう。

絵本には、私たち人間が生きていく上で必要な事が書いてある。『絵本』は『心』が育つ栄養の一つだと思う。活字が嫌な人も、手始めに絵本を読んでみるのもいいかもしれない。

絵本には、あなたがまだ知らない『何か』が待っているような気がする。



児童文化研究大会 に出席した 秋の一日

幼児教育科1年 横山 尚子

10月13日の児童文化研究大会では、午前に分科会、午後には講演会が行われた。私は午前は第三分科会に出席し、長野市立鍋屋田小学校の中村礼子先生の「初等教育におけるオペレッタ活動の効用」というお話を聞いた。1年前期の「音楽表現指導法Ⅰ」という授業で、初めて“オペレッタ”を知り、それ以来ずっと興味を持っていた。まず、中村先生ご自身がオペレッタに興味を持ち始めてから子ども達に教えるまでの過程を、プリントやスライドで見せていただいた。本学の北村恵子先生を訪ねて、オペレッタについてのお話を聴き、ぜひやってみたいと思ったというお話や、たくさん実践し研究してみた結果、小学3年生頃の年齢がオペレッタをやるのに最も適していることなどを伺った。オペレッタをやったことにより、場面緘黙の傾向を示していた子どもが、大きな声で元気に話せるようになったり、友達との関わりをうまく持てなかった子どもが、思いやりを持ちながら多くの仲間と関わるようになったり、良い方向に成長した子どもがとても多いという。それは、単にオペレッタをやったからではなく、練習時の指導における担任の先生の温かい思いと情熱が子ども達を成長させたのだということが分かつ

た。最後に、今年6月にやったオペレッタ『窮鼠猫噛み猫髭たてる』のビデオを見せていただいた。子ども達が練習の時よりもとても上手になり、声もよく出ていたことに、私は深く感動した。私は引っ込み思案な性格なので、子どもの頃にオペレッタをやっていたら、もっと大きな声で話せるようになったかもしれないと思いながら、子ども達の様子を見た。けれど、今からでも遅くはないと思うので、ぜひオペレッタについていろいろ学び、取り組んでいきたいと考えている。

午後からは『ねえ うたって あそんでよ』という題で、中日子ども会の山崎治美先生の講演をお聞きした。とても興味深いお話の中で、たくさんの歌・手あそびを教えていただいた。例えば、一つの手遊びでも言葉を変えるだけで、たくさんの手あそびになる。子ども達に考えさせるようにすると、さらに手あそびが増えるし、子ども自身も楽しい。自分の考えたあそびを友達と一緒にやるのは、子どもにとって大変充実感が得られ、喜びにもなることだろう。今回山崎先生と一緒に歌った歌は、私が昔よく歌っていたものなので、どれも親しみやすくて歌うことができた。とても楽しく、あっという間に時間が過ぎていった。山崎先生に教えていただいた歌やゲームは、これからの実習や、将来幼児教育の現場で働く時にきっと役立つことだろう。

児童文化研究大会に一日参加して、幼児・児童に対する音楽活動について学ぶことができた。これらのことを今後も忘れずに活かしていきたい。

本学の先生方の新刊書

(平成十三年中に刊行された単独著書・共著・分担執筆)

(著者五十音順)

長田 真紀先生 著書

* 『芥川龍之介事典』

(鮎沢出版) 九〇〇〇円/項目執筆

* 『日本史有名人の晩年』

(新人物往來社) 一六〇〇円/共著

塩入 秀敏先生 著書

* 『丸子の民話をたずねて』

(丸子民話の会) 一〇〇〇円/監修

原 史子先生 著書

* 『新・社会福祉概論』

――変革期の福祉をみつめて――

(株式会社みらい) 二二九〇円/共著

林 昭志先生 著書

* 『幼児・児童心理学』

(二葉社) 一八〇〇円/分担執筆

菱田 隆昭先生 著書

* 『子どもたちはいま』

――産業革新下の子育て――

(学文社) 二二〇〇円/分担執筆

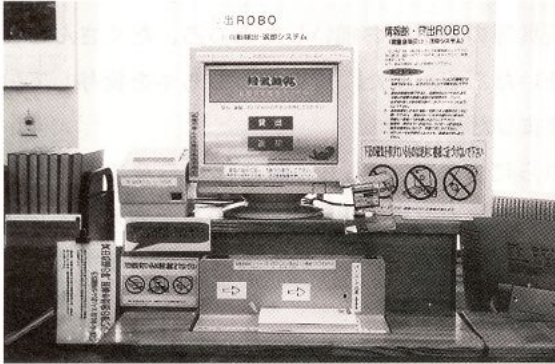
* 『新教育原論』

(海井書館) 二九〇〇円/分担執筆

図書館ガイド

図書館の貸出・返却が自動になりました。

後期より、図書館カウンターに図書自動貸出・返却システム・通称「貸出ROBO」が設置され、利用者の皆さんがセルフサービスで、貸出・返却ができるようになりました。



利用に際して特に次のことに注意して下さい。

1. この機械では視聴覚資料（CD・LD・ビデオ・DVD・テープ）の処理はできません。必ずカウンターで今までどおり手続きをして下さい。
2. 貸出処理の際、図書のデータを読み込むと同時に「ブック・ディテクション」の信号解除の「コーン」という音がしますが、ここで図書を機械から離してしまわないで、2秒程図書を機械の上に置いたままにして下さい。信号の解除があまいと「ブック・ディテクション」がピーピー鳴ってしまいます。ゆっくり左から右へスライドさせ、ストッパーのところまで2秒程止めてみて下さい。
3. 図書館から何も借りたりしていないのに、ディテクションシステムのところでアラームが鳴ってしまうことが時折あります。そんな時は、自分の荷物の中に金属類・磁気を帯びたものを持っていないか確認して下さい。（特に財布・ベルト・傘・カード類等が要注意です）

従来どおりカウンターでも手続きはできます。遠慮なく申し出て下さい。

第二回 図書館主催「七夕文学賞」受賞作品

本年度の「第二回 七夕文学賞」には次の皆さんの作品が入選し、7月19日表彰式を行いました。

優秀賞

『ただ一度 君に逢はむと 幾百の 夜を越えて立つ 天の川辺に』

国文科 1年 近藤 貴子

佳作

『彦星は どんな顔かと 思い出す
鮮やかにもなり おぼろげにもなる』
幼児教育科 2年 宮下 明己

佳作

『川渡り あなたに会いに 行くよりも
電子メールが 現在は速いの』
国文科 2年 松川 藍

佳作

『逢いたいと 思う願いが 強いから
今宵はきっと 幸せ叶う』
国文科 2年 羽田さとみ



図書館ニュース

本年度のイベントから「懐かしのおもちゃ展」開催



図書館では、6月1日から6月30日までの期間、閲覧室にて、「懐かしのおもちゃ展」を開催しました。全学のみなさんに家に眠っている郷土玩具・民俗玩具・伝統玩具等の寄贈をお願いしたところ、たくさんのご寄付をいただき、また、貴重なおもちゃを貸与していただきました。

それらに合わせ、おもちゃ屋さんから今でも手に入る伝統玩具等を児童文化研究所の予算で購入していただきました。合計で100点以上のおもちゃ類を展示することができました。

ご寄贈いただいた皆さんに厚くお礼を申し上げます。

これらは児童文化研究所の財産として永く保存し、教育の現場で役立てていきたいと思っております。



編集 後記

ここに、図書館報“みすず”第28号をお届け致します。玉稿をお寄せいただきました皆様に、心から御礼申し上げます。

このところ、驚愕のニュースが連続して伝えられ落ち着きません。日々移り変わる秋色美しい独鈷山や、裏山を背景にした北野講堂の凛としたたたずまいに見守られて、心穏やかな日々を過ごしたいと願っています。(北村恵子)

みすず 上田女子短期大学附属図書館報 第28号 2001.12.発行

編集 上田女子短期大学図書館紀要委員会
発行 上田女子短期大学附属図書館

〒386-1214 長野県上田市下之郷乙620
TEL : 0268-38-6019
FAX : 0268-38-6019
E-mail : lib@uedawjc.ac.jp